

1996.4.6

大同工大 DAIDO CAMPUS

# キャンパス

編集・発行 大同工業大学広報室 〒457 名古屋市南区瀧春町10-3 TEL052-612-6117(直)

## ●CONTENTS●

1. 堀井新学長就任
2. HOT LINE/平成8年度学事日程・同年入試志願者状況／学位記授与式
4. CAMPUS LIFE/晴れの受賞おめでとうございます・寄稿・MY VOICE
6. 平成7年度国庫等補助金の交付について・受託研究について・新任職員紹介
8. INFORMATION/人事・学生課・図書館

# 堀井新学長、就任!



戸澤康壽学長の任期満了に伴い、学長選考規程に基づき、学長候補者3名の信任投票が行われました。その後学長候補者選考委員会の議を経て、2月28日に開催された理事会において堀井憲爾氏が選任され、4月1日付けにて大同工業大学学長として就任しました。

抱負

隠れた才能を引き出し、  
やる気のあるエンジニアとして  
世に送り出さねばならない

名古屋大学教授から豊田高専校長へと定年まで勤め上げた後、一年間を自由人としてゆっくり充電できたが、この度本学学長の重責を担うこととなった。親方日の丸が染みついた永年の埃を落として、新鮮な気持ちで大学を見れば、今までとは違ったものが見えてくる。

まず、世間からお預かりした大切な宝物、次代を担う貴重な若者を粗末には出来ない。誰もが持っている隠れた才能を引き出し、やる気のあるエンジニアとして世に送り出さねばならない。教育とは、ふんぞり返って授けるものではなく、あくまでも学生の目線で対応せねばならない。

偏差値は、多様で無限な若者の能力の一断片を見ているに過ぎない。誰にでも得手、不得手はある。その得手を伸ばしていくべし一流になれる。不得手もそれに隠れてしまう。たとえ一流になれなくても、得意な分野で活躍できる。

学生諸君に、大同工大へ来てよかったと思われるような大学になれるよう、微力を尽くしたいと念願している。

## 新学長の プロフィル

- 堀井憲爾  
(ほりいけんじ)
- 生年月日  
昭和5年1月7日生
- 最終学歴  
昭和27年3月 名古屋大学工学部電気学科卒業
- 学位  
工学博士 (名古屋大学)
- 職歴  
昭和27年通産省工業技術院電気試験所入所後、同所電力部高電圧現象研究室長、極限技術部高エネルギー研究室長を歴任。昭和46年名古屋大学工学部電気学科教授、平成2年豊田工業高等専門学校長、平成3年名古屋大学名誉教授、平成7年豊田工業高等専門学校名誉教授、名古屋産業科学研究所中部ハイテクセンター相談役を経て平成8年4月大同工業大学学長に就任
- 専門分野  
放電工学、エネルギー工学

平成8年度

# 学事日程



## 平成8年 4月

- 2日(火) ガイダンス(新入生)  
春季休業終了  
3日(水) 前期授業開始(在学生)  
6日(土) 入学式  
8日(月) 健康診断、受講ガイダンス、  
諸手続(新入生)  
大学院新入生ガイダンス  
8日(月)～9日(火)  
受講票受付(新入生)  
9日(火) 前期授業開始(新入生)  
16日(火) 日本育英会出願説明会  
24日(水) 受講不認可発表  
29日(月) 新入生歓迎会

## 5月

- 2日(木) 開学記念日の振替(休講)  
10日(金) 開学記念日(授業実施)  
12日(日)～19日(日)  
大学祭  
(12日 仮装行列)  
(13日 新企画)  
(14日 麻雀大会)  
(15日 ボーリング大会)  
(16日 前夜祭)  
(17日 本祭・ソフトボール大  
会)  
(18日・19日 本祭・後夜祭)  
20日(月) 代休講



## 6月

- 8日(土) クラブ対抗ボーリング大会

## 7月

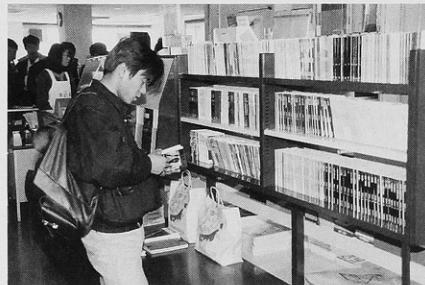
- 10日(水) 前期授業終了

11日(木)～17日(水) 前期補講期間  
(15日 月曜日の授業実施)

18日(木)～31日(水)  
前期試験期間

## 8月

- 1日(木) 夏季休業開始  
1日(木)～9月30日(月)  
夏季休業期間  
1日(木)～3日(土)  
リーダースキャンプ  
3日(土)～24日(土)  
短期留学(ヨーロッパコース)  
9日(金) 前期試験成績発表  
15日(木)～9月9日(月)  
短期留学(アメリカコース)



## 9月

- 13日(金)～21日(土)  
集中講義期間  
20日(金) 前期追・特追・再試験受付  
24日(火)～26日(木)  
後期受講票受付期間  
24日(火)～30日(月)  
前期追・特追・再試験期間  
30日(月) 夏季休業終了

## 10月

- 1日(火) 後期授業開始  
7日(月) 前期追・特追・再試験成績発表  
8日(火) 日本育英会出願説明会  
(1年次)  
11日(金) 受講不認可発表  
24日(木)～25日(金)  
体育大会(休講)

## 11月

- 3日(日) 学内レガッタ大会

## 12月

- 21日(土) 冬期休業開始  
21日(土)～1月9日(木)  
冬季休業期間  
21日(土)～27日(金)  
後期補講・集中講義

## 平成9年 1月

- 4日(土)～9日(木)  
スキースクール  
9日(木) 冬期休業終了  
10日(金) 授業開始  
27日(月) 後期授業終了  
28日(火)～2月10日(月)  
後期試験期間



## 2月

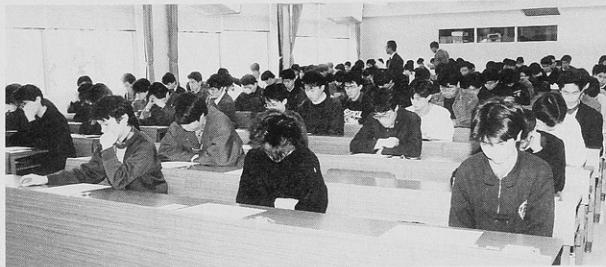
- 24日(月) 後期試験成績発表  
後期追・特追・再試験受付  
26日(水)～3月3日(月)  
後期追・特追・再試験期間

## 3月

- 12日(水) 後期追・特追・再試験成績発表  
19日(水) 学位記授与式  
21日(金) 春季休業開始  
21日(金)～4月2日(水)  
春季休業期間  
28日(金)～4月1日(火) ガイダンス  
31日(月)～4月2日(水) 健康診断

平成8年度  
入試

# 志願者状況



平成8年度入試は、受験人口の減少や景気の長期低迷による併願校の絞り込み地元志向、国公立志向などが背景となって行われました。

関東・東京地区の大学では志願者減の幅が小さく、関西では大規模校・伝統校を中心にかなり落ち込み、北陸・東海では試験日の重複する大学が急増しました。志願者減は関西よりも大きかった中で、本学の志願者も減少の結果となりました。

最近の受験生は、「入れる大学」から「入りたい大学」へと学生が大学を選ぶ時代になってきたこの頃、大学としては一層の教育内容などの充実が欠くことのできない課題であると思われます。各入試の志願状況の概要は、別表のとおりです。

## ■大学院入試について

**[修士課程]** 志願者58名、合格者52名

**[博士後期課程]** 志願者2名、合格者2名

本学大学院への内部進学は年々高まってきており、現在のところ、学部卒業生の5%が進学しています。

平成7年度

# 学位記授与式



平成7年度の学位記授与式は、3月24日(日)午前10時より名古屋市公会堂で学部の卒業生668名と大学院修士課程修了生34名が出席して挙行されました。

開式の辞の後、戸澤学長が学士と大学院修士の学位記をそれぞれ授与しました。その後、学長告示・卒業生答辞・来賓祝辞・表彰等と続き、11時に終了しました。

卒業生達は、開場前の広場で記念撮影したりして、大学生活最後の一時を味わっていました。

平成8年度 学科別・入試別志願者状況

| 学 科         | 女子学生推薦 | 工業高校推薦 | 推 薦   | センターリ用 | 前 期   | 後 期   | 計     |
|-------------|--------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 機 械 工 学 科   | 17     | 100    | 566   | 160    | 1,193 | 308   | 2,344 |
| 電 气 工 学 科   | 17     | 71     | 282   | 66     | 1,117 | 147   | 1,700 |
| 建設工学科土木工学専攻 | 32     | 31     | 306   | 81     | 633   | 156   | 1,239 |
| 建設工学科建築学専攻  | 54     | 60     | 331   | 91     | 911   | 238   | 1,686 |
| 応用電子工学科     | 17     | 75     | 244   | 107    | 556   | 167   | 1,165 |
| 計           | 137    | 337    | 1,729 | 505    | 4,410 | 1,016 | 8,134 |

都道府県別志願者状況

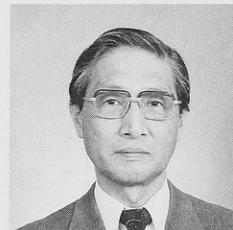
| 都道府県別 | 北海道 | 青森 | 岩手 | 宮城 | 秋田 | 山形 | 福島 | 茨城 | 栃木 | 群馬 | 埼玉 | 千葉 | 東京 | 神奈川 | 新潟 | 富山  | 石川  | 福井 | 山梨 | 長野  | 岐阜    | 静岡  | 愛知    | 三重  |
|-------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|-----|-----|----|----|-----|-------|-----|-------|-----|
| 志願者数  | 7   | 2  | 1  | 1  | 3  | 3  | 2  | 16 | 7  | 13 | 18 | 8  | 6  | 15  | 19 | 141 | 170 | 78 | 16 | 212 | 1,016 | 495 | 4,421 | 613 |

| 都道府県別 | 滋賀  | 京都 | 大阪  | 兵庫  | 奈良 | 和歌山 | 鳥取 | 島根 | 岡山 | 広島 | 山口 | 徳島 | 香川 | 愛媛 | 高知 | 福岡 | 佐賀 | 長崎 | 熊本 | 大分 | 宮崎 | 鹿児島 | 沖縄 | 大  | その他の |
|-------|-----|----|-----|-----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|------|
| 志願者数  | 197 | 78 | 100 | 103 | 41 | 55  | 6  | 7  | 45 | 51 | 11 | 29 | 41 | 23 | 13 | 6  | 1  | 6  | 2  | 6  | 5  | 6   | 3  | 11 | 5    |

## はなむけの言葉

前学長 戸澤 康壽



本学の教育理念「人類の幸福に貢献することを究極の目的として…」を自覚し、生涯学び続ける姿勢を。

学位記授与式において卒業生の皆さんに学長としてのはなむけの言葉を贈りました。この内容は在学生諸君に対しても通じることなので、ここにその要点を記してメッセージとします。

わが国は敗戦直後の荒廃しきった社会から、50年の間に今日のような高度技術社会へと発展し、物質的生活水準は著しく向上しました。しかし一方では多くの問題も生じました。世界は国境のない社会へと移りつつあるのです。貿易摩擦の基盤となった生産技術の問題も、資源や公害の問題も、地球規模で考えねばなりません。これらは人類の未来に係わる問題であり、その根底には技術が係わっています。国際感覚を養い、世界規模での視野のもと、技術者として積極的な自己展開を行なって下さい。

一方、社会で生活する以上、社会

人としての常識を持っていかなければなりません。「科学は常識を疑うことから始まる」と云われますが、社会生活の常識は軽視してはなりません。物の考え方や心の持ち方が大切です。このような常識を持つことによって、初めて専門の知識はその主要な目的を達成できるのです。本学の教育理念の「人類の幸福に貢献することを究極の目的として…」は、このことを指しています。科学技術そのものは、使い方によっては人類を破壊にも導きかねないものであることを想起し、社会に対する責任の大きいことを自覚して下さい。

大学で得た知識能力だけでは、急速に進展する科学技術に対応しきれません。目的意識や課題意識を自ら持ち、生涯学び続ける姿勢を堅持してほしいと思います。

# 晴れの受賞、おめでとうございます

## ——平成7年度学長賞、三好賞が決定——

今年度の学長賞（大学院においては論文賞）および三好賞が3月24日（日）挙行  
の学位記授与式において次の学生の皆さんに授与されました。

### 学長賞

#### ●学部学生（8名）

……学業、人物健康ともに優れ他の学生の模範であると認められた。  
機械工学科／井上登美子（犬山高校）  
機械工学科／斎藤雅広（浜松湖南高校）  
機械工学科／横井秀昌（知多東高校）  
電気工学科／鈴木智也（昭和高校）  
建設工学科（建築）／小久保亘紀（宇治山田高校）  
応用電子工学科／杉原信（瀬戸北高校）  
応用電子工学科／平尾博幸（鳴海高校）  
……学外において本学の名誉を高める善行があった。  
応用電子工学科／萩原匡（水橋高校）

### 学長賞（論文）

#### ●大学院生（6名）

修士論文が特に優秀で、他の学生の模範と認められた。

機械工学専攻／飯田健一  
機械工学専攻／伊藤隆師  
電気・電子工学専攻／孫 虹  
電気・電子工学専攻／豊田大介  
建設工学専攻／井藤忠幸  
建設工学専攻／長田好夫

### 三好賞

#### ●学部学生（6名）

この賞は本学の元教授である三好保憲氏が、退職される際に学生のために役立つものに使うように、と寄付された基金により授けられるものです。これまでに周りの人望が厚い、研究室の活性化に寄与した、課外活動の発展に寄与したなどの理由により、多くの受賞者を出しています。  
機械工学科／多田幸平（大阪青陵高校）  
——阪神大震災での被害にもめげず、真摯な態度で努力した。明るい性格で信頼も厚く、卒研グループで索引車的役割を果たした。

機械工学科／野村純二（尾北高校）

——卒業研究の取り組みが真剣かつ積極的で、グループ内でリーダー的役割を果たした。これが他のグループにも良い影響を与えた。

電気工学科／山田朋宏（南陽高校）

——卒業研究等の成果が非常に優れ、常に探求心を持って活発に行動する態度が模範的である。

建設工学科（土木）／近藤徹（知立東高校）

——精神的にも人一倍強く、卒業研究室の同輩の良き相談相手であり、研究室での実験発表でも中心的役割を果たした。

建設工学科（建築）／各務江南子（尾北高校）

——設計競技に2回入賞し、本学の名誉を高めたグループにおいて、よく努力し、著しく貢献した。

応用電子工学科／小久保秀人（成章高校）

——物事の解明に真剣に取り組む姿勢が卒業研究、委員会活動で優れた成果をおさめた。

## 本学卒業生が 国立大学院へ 現役合格!!

#### ◆修士課程

- ◎名古屋大学大学院  
92E072 澤 佳宏（鈴鹿高校出身）  
92D056 佐藤好洋（一宮北高校出身）
- ◎信州大学大学院  
92C075 西澤功典（大町高校出身）
- ◎名古屋工業大学大学院  
92C080 阪野正明（瑞陵高校出身）
- ◎九州芸術工科大学大学院  
92D097 東 有紀（宇治山田高校出身）

#### ◆博士課程

- ◎名古屋工業大学大学院  
39405 高木静江（坂出高校出身）

## 退任される先生方よりの寄稿

### 機械工学科教授 清家政一郎

生涯を通じて發揮される学力の基礎は、十代後半から二十代前半の勉学によって培われる。諸君は、高校時代までは詰込式指導と丸暗記式勉強に慣れさせて来たが、これから一日も早く脱却して、物事を自主的に学習し、論理的に思考する姿勢・習慣を養うように努力して欲しい。

### 電気工学科教授 松浦清剛

諸君が就職することになる社会は技術革新中で、各社はそれぞれ独創性が求められています。諸君も大学では物事を系統的に考える力を養って下さい。

また学生時代の友人は一生の宝です。良い友人を多くもって下さい。

### 応用電子工学科教授 宇野 正美

大学院修士課程から博士課程設置へとこの七年間の本学の発展には目をみはるものがある。

これからは二つ以上の学問を合わせた境界領域の学問が盛んになる。この際大事なことは各分野の知識の基礎をしっかりと身につけておくことであろう。

強固な基礎は柔軟な対応を生む。

### 応用電子工学科教授 三栗谷信雄

先日、非常勤の二人の先生と話していたら異口同音に「本学の学生は試験の時退室の許される時刻を待ちかまえたように出て行く学生が見られる。」とのこと。私も常日頃感じていたことです。人生には粘りが必要、考えを粘って。今後の健斗を期待します。少し辛口のメッセージ。

# MY VOICE

## 「新入生歓迎のことば」



学生会長 93A094 村井宏行 (袋井高校出身)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

4月から念願の大学生活が始まるわけですが、この長い大学生活をどのように送ろうと考えていますか。

大学生活という自由な時間のなかで、やろうと思ってできないことはほとんどありません。そんな大学生活のなかで、ただ漠然と大学に来て講義を受けるだけの生活では何も得るものはありません。そこで

大学生活のなかで卒業後に友人や知人に「大学でこれをやったんだ」と自慢できるようなものをつくるほしいと思います。

今の大学生を見ていると、大学の講義を受け、その後にアルバイトに行く。そんな生活を送っている人が多くいるが、そんな人を見ているとなんだか味気ないように思えてくる。アルバイトがいけないことは思えないし、社会経験を積んだり、「何かを買いたい」などの確固たる目的があるのなら、アルバイトはむしろやった方がいいと思う。しかし仕事なんて、大学を卒業したら嫌というほどしなくてはならない。

そんなことを考えると、「大学生だからできる」、「大学生にしかできない」ようなことをやってほしいという気もする。なにはともあれ、誰にも真似のできない自分だけの大学生活を送ってほしいと思う。

## 「大学に入って」

95C071 林 洋祐 (東郷高校出身)

大学に入つてもう1年がたとうとしてい

る。学校にもだいぶ慣れたり、いろいろな友達もできた、高校とは違い、とても自由であり自分のやりたいことがやれる、とてもいい環境である。勉強したければできるし、いろいろなバイトをして社会勉強だってできる、今が自分をためせる時ではないかと思う。だが自由なために、大学を休んでも叱る人もいなければ、問い合わせる人もいない、だからここでは自己管理がとても大切であることを感じる。だから自分も目標をもって大学にきたいと思っている。

また講義などを聞いていてとても難しい専門的なことをやっていて、高校とは全然違う。

のことから、自分はこんなことがしたいからこの大学に行く、この学科に行くという意識がないと大学生活はつまらないものになってしまふ。またいろいろな友達を作ることも大学生活を楽しく過ごすためにはとても大切である。これからも大学生活を楽しく、実りのあるものにしていきたいと思っている。



昭和6年10月27日生 東京都出身  
名古屋大学工学部電気学科卒・工学博士。豊田工業高等専門学校教授、教務主事を経て、平成7年4月より本学へ就任。

大学時代は長距離に励んだ。

「当時の世の中は安保闘争で騒然としていましたので、スポーツでもしてやろうと思った訳です。それまで陸上経験はなかったので、シロウトでもできるのは長距離かなあと」

当時の名古屋大学陸上部は弱く、記録的活躍はおぼつかない現状だった。そこで大学の名を挙げるには学生陸上競技連合での活躍しかないと考えた。

## 日本学生陸上競技連合理事

社団法人 電気工学科教授 高田和之さん

もうひとつの私

## 爽快感が陸上競技の魅力

昭和28年に東海学生陸上連盟で会計を務め、翌29年には幹事長に。

「少ない部員での、東海学生駅伝（名古屋ー一宮ー岐阜ー犬山ー小牧ー名古屋）は完走するための人数の確保が大変でした。四年生の幹事長時代には、開会式を終えてから先導車に乗って岐阜ー一宮間の一部を走ったこともあります。名大は弱かったので、先導車が通ってから名大の選手が来るまでに十分アップの時間があった訳です。『幹事長が走る』と朝日新聞に顔写真が載ったんですよ（笑）」懐かしそうに当時を振り返る。

昭和29年には、幹事長として東海地区で初の日本インターハイを岐阜で開催した。「開会式から閉会式まで秩父宮勢津子妃殿下も出席くださいました。

妃殿下とはそれ以来、長いお付き合いをさせて頂きました。御用邸へ御招待くださったこともありますよ」平成6年には秩父宮章（日本陸上競技会に対する功劳賞）を受賞。

他にも、熱田ー伊勢間を走る全日本大学駅伝対抗選手権大会の創始を築き上げた。その駅伝大会も、昨年11月で27回大会に。高田教授と大学陸上との関わりは深く長い。

「走った後のあの爽快感。あれは実際に経験した人じゃないと分かりませんね」大同工大にも陸上競技部を作りたい構想中。

「それから東海学生陸上連盟が女子駅伝を開催する予定なんですが、大同工大からもぜひ参加させたいですね」

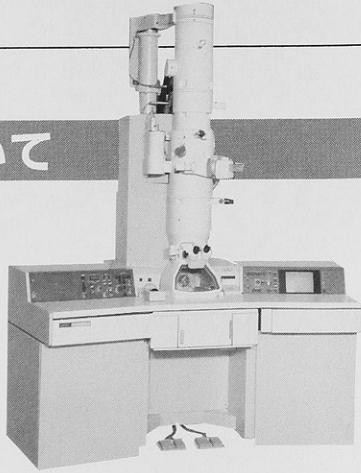
CAMPUS LIFE

## 平成7年度 国庫等補助金の交付について

本紙18号にて国庫金等補助金の交付状況をお知らせいたしましたが、このたび下記のとおり新たに補助金が交付されました。

| 補 助 金 名                                | 装 置 名             | 研究代表者               | 補助金交付額                            |
|--|-------------------|---------------------|-----------------------------------|
| 私立学校施設整備費補助金<br>(私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費) | 超 微 構 造<br>形態観察装置 | 岩間三郎教授<br>(応用電子工学科) | 18,450千円<br>(購入経費<br>41,993,512円) |

汎用の高分解能分析電子顕微鏡として、高分解能像観察、極微小領域X線分析、収束電子回析による結晶構造の精密解析をはじめ、物質の電子構造や結合状況の解析まで、材料開発、物性研究に威力を発揮します。



## 受 託 研 究 に つ い て



平成8年1月から2月末までに民間企業からの受託研究は次のとおりです。

**【委託研究】** 委託研究とは企業等から特定の研究テーマに関し研究を委託されるものです。

| 委託者  | 研究担当者                  | 受託研究費   | 研 究 テ ー マ                    |
|------|------------------------|---------|------------------------------|
| 一般企業 | 岩間三郎教授<br>(応用電子工学科)    | 3,000千円 | チタン、チタン合金の蒸着およびスパッタリングに関する研究 |
| 一般企業 | 市古忠利助教授<br>(材料科学技術研究科) | 100千円   | 未利用資源の有効利用についての開発指導          |

## 「平成7年度学術提携交流留学生研究発表会」 および「海外学生留学・研修報告会」開催される

学術提携交流留学生の研究発表会と海外留学生留学・研修を体験した学生たちの報告会が多くの聴衆者を得て下記のとおり行われました。

- 期日 平成8年3月1日(金)
- 会場 滝春校舎 図書館4階 大会議室
- 発表・報告者
  - (1)研修発表留学生 ゴツツ・ゴルトアッカー君 (アーヘン工科大学からの交流留学生)
  - (2)研修報告学生 高橋宗宏君 (大学院機械工学専攻2年生)  
藤井 稔君 (大学院建設工学専攻2年生)  
西部 昭宏君 (建設工学科建築学専攻4年生)



## 新 任 教 員 ご 紹 介

## INTERVIEW



### 日々を大切に生きる —タイム・イズ・フレジャー—

機械工学科教授 藤井省三氏

発電ボイラ、焼却炉、鉄鋼プラント等のプロセス制御、船舶自動操舵システム、ロボット制御への応用研究、また、柔軟構造物、自動車、ロボットのロバスト制御に関する研究において顕著な功績を挙げる。

究極の制御の姿は、制御系の自動設計であるという信念の下に、制御理論とその応用に関する研究に従事してきた。

コンピュータ・ビジョンやパターン認知等の情報工学分野にも関心をもっている。

「コンサルタント的なポランティアでもやって、そろそろ人生をゆっくり楽しもうかと思っていたんです。タイム・イズ・マネーで

プロフィル (ふじい せいぞう)

出身地／愛知県名古屋市

最終学歴／名古屋大学大学院工学研

究科博士課程応用物理学専攻修了。

学位／工学博士 (名古屋大学)

最終前歴／名古屋大学大学院工学研

究科電子機械工学専攻・教授

生年月日／昭和8年1月24日

趣味／ゴルフ、テニス、スキーアクティビティ

システム制御工学全般が研究領域なのだが中でも特に最適化制御、適応制御及びスーパーバイザ制御に関する理論的研究、

なく、タイム・イズ・プレジャーの精神で。しかし諸般の事情で、大学に再びお世話になります（笑）」

大同工大での教育方針については「基礎的なことを重視します。基礎がしつかり解れば、おのずと応用も出来るわけです

から」そして学生は自ら学び取り、考える力を育成して、個々の独創性を伸ばすことが大切とも。

『日に新たな活動を続ける限り、青春は永遠にその人のものである』というサミュエル・ウルマンのこの言葉をモットーに、

一日一日を大切に、若さを失わないようにがんばりたいと語る。

ゴルフ、テニスなどスポーツマンとして的一面も兼ね備える。スキーやスイス連邦工科大学の留学時代にマスターした本場仕込み。



## 夢をもって勉学に！

電気工学科教授 藤田順治 氏

**プロフィル** (ふじた じゅんじ)

**出身地** / 岡山県倉敷市

**最終学歴** / 東京大学大学院数物系研究科

博士課程中退

**学位** / 理学博士

**最終前歴** / 核融合科学研究所教授、

総合研究大学院大学数物科学研究科長

**生年月日** / 昭和8年3月26日

**趣味** / 音楽 (あらゆるジャンル)、テニス (下手)、ウォーキング (戦争の王様ではない)

プラズマ研究の第一人者として、文部省核融合科学研究所 研究・企画情報センター長を経て、総合研究大学院大学数物科学研究科長に。

核融合科学研究所では、将来の核融合炉の実現に向けて、大型ヘリカル装置の建設を行っている。これまでの研究で、

プラズマに中性粒子ビームを打ち込んだ際に起こる原子過程に、分光学的な手法を組み合せ、プラズマの主要なパラメータである温度や密度、電場、磁場などを計測するプラズマ診断を担ってきた。

専攻を決めた昭和28年の学生当時は、核融合研究は今ほど注目されていなかつ

た。「担当教授の人柄に惹かれて」放電プラズマを選択。その後、核融合研究は代替エネルギー源の有力候補として、時代の流れの中心に。プラズマは、産業界にも広く応用されるようになった。

物質三態のいずれとも違った振舞いをするプラズマの、その神秘性に魅せられ続けてきたという藤田教授は、工学系の学生にも、もっと夢を抱いてもらいたいと語る。研究することの面白さ、新しいものを作り出す楽しさを肌で感じ取ってもらえるよう、学生実験の見直しを図るなど、自身の授業内容にも思いが反映される。

「自分の研究を究めるのも大切ですが、次代の研究者や技術者を育成することも、大変に重要なことだと考えています」

大同工大の特色作りに役立てれば、と春からの抱負を熱っぽく語る。

## 39歳、環境地盤工学を目指す

建設工学科助教授  
〈土木工学専攻〉 大東憲二 氏



**プロフィル** (だいとう けんじ)

**出身地** / 島根県安来市 (安来節の発祥地)

**最終学歴** / 名古屋大学大学院工学研究科博士課程地盤工学専攻満了

**学位** / 工学博士

**最終前歴** / 名古屋大学大学院工学研究科地盤環境工学専攻・助手

**生年月日** / 昭和32年4月2日

**趣味** / パソコン、クラシックギター

名古屋大学4年次に植下協研究室に配属され、『濃尾平野の地盤沈下』を卒業研究のテーマとしたことによって、それ以降地盤工学を専攻することが決定的となった。

植下教授（現中部大学教授）は環境地盤工学界の提唱者であり、以後同教授との共同研究による共著1冊、学術論文21編ほか、12編の論文を世に送る。

これまでの研究テーマは『地盤掘削を

伴う開発における地下水問題の予測と防止』『地盤環境データの有効利用』など5テーマ。

「『地盤を掘削して開発する工事の地下水問題』の研究で、最近対象としたのは東名阪自動車の上社ICから小幡IC間の工事現場です。この場所には何度も足を運びました。こうした現場見学をもとにした問題提起は重要です。実測のデータは重要な資料であり、研究に生かされま

す。工事現場では道路公団や役所の関係者、建設会社の技師などの多くの人たちとの出会いがあり、研究室での研究が多くの経路を経て現場で生かされる実感を肌で感じます。」

本学での新しい研究テーマは、同科の桑山教授と共に取り組む『新しい土質改良材の開発・鉄鋼スラグの有効利用』。

「本学のような工業専門大学の特長は、個別の専門テーマに取り組むことで、その専門家を目指せることだと思います。学生達の研究成果や論文なども、できるだけ学会などの対外発表の場に出したい。そういうことによって学生達も研究の実感が湧くこと思います」

助教授自身、平成8年3月（社）地盤工学会発行『地盤環境読本』の中の『地盤・地下水汚染問題』を担当・執筆。また同学会主催「地盤環境フォーラム（3月26日開催）では『開発と環境問題』のセッションのパネラーを務めるなど、広い場で活躍、研究を深めている。

# INFORMATION

## 人事

### ◇新任◇ (平成8.4.1付)

●学長／堀井憲爾 ●教授／藤井省三(機械工学科) 藤田順治(電気工学科) ●助教授／大東憲二(建設工学科土木工学専攻)

### ◇昇任◇ (平成8.4.1付)

●教授／水野義雄(保健体育教室) 酒井陽一(化学教室) 関谷昌久(電気工学科) ●助教授／神保睦子(材料科学技術研究所) ●講師／矢野治久(機械工学科)

### ◇退任◇ (平成8.3.31付)

●学長／戸澤康壽

### ◇退職◇ (平成8.3.31付)

●教授／加藤容三(機械工学科) 清家政一郎(機械工学科) 松浦清剛(電気工学科) 石綿知治(建設工学科) 宇野正美(応用電子工学科) 三栗谷信雄(応用電子工学科)

## 学生課

### ●全員参加を!大学祭



本学の大学祭は、他大学に先駆けて今年も5月に開幕します。期間は5月12日から19日までの一週間です。

期間中に行われるは仮装行列やソフトボール大会、模擬店やステージの繰り広げられる本祭、一般の方々にも工学をかいだ見ることのできる工学展などのイベントです。企画立案から実行まで、

学生たちが自主的に行うというのも大学ならではといったところ。主催する大学祭実行委員会を中心に、クラブやA.A.セミナー、それに卒業研究に携わるメンバーなどが結束し、良き思い出を作ります。

入学間もない人もそうでない人も全員参加で、年に一度の祭典をエンジョイして下さい。

### ●クラブ加入のススメ



まずは、勉強が第一です。これは言うまでもありません。続いて何が大切か。

大学に入学して「あれもやりたい」「これもやりたい」と希望に燃えている人も、「これといってやりたいことがない」という人もぜひ実践してほしいことがあります。

それは、最高学府に学ぶ間に豊かな人間関係を構築すること。大学はこれまで皆さんが学んできた学校以上に様々な人間で構成されています。最先端の分野で研究活動に携わる教授陣はもちろんのこと、周りの同級生や先輩たちを見渡すだけでも、出身や経験、主義主張など千差万別です。こうした人と交わり合い、互いを認め合い、そして自己を研鑽していくことが、今後の人生を豊にしていくうえでかけがえのない財産となります。

大学において、これが実践できる場がクラブ活動に他なりません。本学には文化系・運動系合わせて約30の課外活動団体があり、それぞれが学生達の自主的な活動の場となっています。

入部間もない頃は慣れない生活も相まって、先輩達との人間関係に戸惑いが生じたり、苦痛を感じことがあるかもしれません。しかし、新しい世界にはいれば、これはつきもの。自己のために克服することが肝要です。

4月中旬に、先輩学生がそれぞれのクラブを新入生にPRします。これに足を運び、ぜひ何らかのクラブに加入することを推奨します。

### ■クラブ紹介・勧誘期間

4月15日～26日

滝春校舎ピロティにて

## 図書館

### ●図書館オリエンテーションについて

新入生の皆さん、大学の図書館とはどのような所だと思いますか?図書館では、大学に入学して間もない皆さんに、本学の図書館について知っていただきため、『図書館オリエンテーション』を開催します。開催日時は、毎週行われるA.A.セミナーの時間帯とし、セミナー担当の教員と一緒に図書館をご案内します。

なお、申込みは、セミナー担当の教員にしていただくことになります。

このオリエンテーションでは、閲覧室をはじめとしてどのような施設があるのか。また、図書の他にどのような資料があるのか。(最近、数多く出版されているCD-ROMもあります。)を実際に館内を見学して体験していただきます。

図書館の利用方法を知っていただいた後は、積極的に利用して、これから的生活をより有意義なものにして下さい。

## 本学滝春校舎内にATM設置される!!

本学滝春校舎正面右横にATM(東海銀行キャッシュコーナー)が設置され、3月21日(木)に横井理事長・大学並びに東海銀行関係者が出席し、開所式が行われました。その後、9時の利用開始時には横井理事長が最初のATMの操作をしました。

なお、利用時間は次のとおりです。

◎平日 9:00～19:00

(預け入れ、振替、通帳記  
入は18:00まで)

◎土曜日 9:00～17:00

(引き出し、カードによる振込、  
残高照合のみ利用可)

